



私が大切にしていること ～違いを認める力とコミュニケーション能力～



理事 曾木 書代

協会の青年委員会委員長に就任し、理事となり一年になろうとしております。また、副事務局長に同時に就任したこともあり、忙しさとともに、微力ではありますが協会の皆様の力になれます様、日々奮闘している最中です。

「路」を書くに当たり、制度や行政等も含め大事なことが多く、何をお伝え出来るか考えましたが、私が園長として園で大切にしていることを今回はお話をさせていただきます。

価値観の多様化が益々進む昨今、社会の中だけではなく、子どもとの保育の現場でも、職員同士でも、『相手に関心を持ち、思いやりを持ちながら聴く力』と『相手を尊重しながら自分の意見をきちんと伝える力』が求められている様に思います。

保育園で問題が起こった時、突き詰めていくと、コミュニケーション不足に起因することが多いと気づきます。「どうしてこうしてくれないの?」「どうして分かってくれないの?」「本当はこう思っていた!」等不満やモヤモヤが保育室の雰囲気悪くしていることがあります。

そう言った場合には、もともと自分と相手は考え方が違う、という前提で物事を考えられる謙虚さが失われていることに気づいていない様に感じます。

特に日本人は共感性が高く、逆に相手にも分かってもらえているつもりでいることが多いですが、実は伝わっていないということが多々あります。だからこそ、一人として自分と同じ人はいないと思うくらいで丁度良く、たまたま同じ意見で共感出来ることがある場合有難いぐらいです。違うことが当たり前で、そこを嘆くのではなく、だからこそ、コミュニケーションを駆使し話し合い、相手を尊重し、分かろうと努力すること、そして自分の気持ちをきちんと伝えること、前に進む為にどう折り合いをつけていくかということが大事だと感じます。分かってくれるものと考えていると、自分で努力もしないで、腹ばかり立ってしまいます。

また、よく言った言わないで問題が起こることもあります。人は誰も自分の都合の良いことしか耳に入ってこないと言います。言ったら伝える責任を果たしたのではなく、相手が理解して初めて伝えたことになることを、そして、相手が理解しているか確認することを意識し、謙虚になることが必要だと感じています。

私の園長として心がけていることは、あくまでも「園長」とは役割としての役職であることを意識し、人としてどの人も対等であることを大事にしたいと思うことです。ですから、指示や命令でなく、あなたはどうか、私はこう思うという、提案やアドバイスとして伝えることを心がけています。そして、園のすべての問題は、人のせいにはせず、回りまわって自分の問題であると本当の意味でその責任を覚悟した人が、園長として主体的に生きていると言えるのではないかと思います。

園長はじめ上司には、皆を引っ張っていくリーダーシップ、教えるティーチング力が大事であることはもちろんです。しかし、時を経て分かったことは、職員の話聴き、信じ任せる力、意見が言いやすい雰囲気づくりと相手の力を引き出すファシリテーター力、目標に向かってモチベーションを上げるようサポートするコーチング力がより問われているように感じます。そして十人十色の職員と園長先生のカラーが光る中、その力を園全体で補い合いながら、組織づくりを行っていったら素敵ではないでしょうか。

制度、行政等の勉強をし、大事な情報を収集し、大きな広い視野で物事を見ることと、社会や制度が目まぐるしい中であっても、土台である自園の保育をいかに固めるか、保育士不足の中でも職員の質、保育の質をどう担保していくのかという目の前の課題に地道に取り組んでいくこと、そのどちらもが、園長、経営者に問われている様に思います。これからも一步一步ですが、日々精進していきたいと思っております。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。